池田市埋蔵文化財発掘調査概報

１９９６年度

１９９７年3月

池田市教育委員会

序　　文

池田市は大阪府の北西部に位置し、五月山の緑、猪名川の水の流れに囲まれています。このような自然の豊かな環境の中、人々が先史の時代から営み始めています。

近年はこの地も、陸・空の交通の要衝として、また、大阪のベッドタウンとして開発が進み、大きく発展してまいりました。

しかしながら、このような開発、発展とは裏腹に、我々の祖先が伝え残してきた文化遺産や自然が破壊され、かっての面影をしのぶことができないほど様がわりしてしまったことも事実です。祖先から受け継がれてきた文化遺産を現代生活に活用しつつ、また、後世に伝えていくことが我々の責務と考えております。

この報告書は、上述した状況の中、危機に直面している埋蔵文化財について、国ならびに、大阪府の補助を受けて実施した発掘調査の概要報告であります。本書が文化財の理解と保護に役立てば幸いと存じます。

なお、調査の実施にあたっては多くの御指示、御助言をいただいた諸先生並びに関係機関をはじめ、土地所有者、近隣住民の方々には文化財保護に対して、格別の御理解と御協力をいただきました。心より感謝と敬意を表し、厚く御礼申し上げます。

平成９年３月

池田市教育委員会

教育長　長　江　雄之介

例　　言

1．本書は、池田市教育委員会が平成８年度国庫補助事業（総額900,000円、国庫50％、府費25％、として実施した埋蔵文化財緊急発掘調査の概要報告書である。

2．本年度の調査および期間は下記のとおりである。

池田城跡第35次　池田市栄本町3063－１　　平成８年10月７日～10月９日

狐塚古墳第１次　池田市旭丘３－97－８　　平成８年12月12日～12月19日

3．調査は、池田市教育委員会生涯学習部社会教育課文化財係が実施し、中西正和が現地を担当した。

4．本書の執筆・編集は中西が行なった。また、本書の製図、遺物実測にあたっては野村大作・辻美穂の協力を得た。

5．本書で使用する土層の色調は、『新版標準土色帖』（農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所　色票監修）による。

6．調査の進行にあたっては、施主並びに近隣住民の方々に深甚なるご理解、ご協力をいただいたことに対し、深く感謝の意を表する次第であります。

目　　次

Ⅰ　歴史的環境……1
Ⅱ　池田城跡発掘調査……5
　１．はじめに……5
　２．池田城跡第35次発掘調査……7
Ⅲ　狐塚古墳発掘調査……8
　１．はじめに……8
　２．狐塚古墳第１次発掘調査……8
報告書抄録……10

図　　版

図版１　池田城跡第35次発掘調査
　⑴トレンチ全景（西から）
　⑵トレンチ北面土層
図版２　狐塚古墳第１次発掘調査
　⑴トレンチ全景（西から）
　⑵トレンチ全景（北東から）

挿　図　目　次

第１図　伊居太神社参道遺跡の石器……1
第２図　遺跡分布図……2
第３図　豊島南遺跡方形周溝墓……3
第４図　池田城跡主郭遺構状況……4
池田城跡発掘調査
第５図　調査地位置図……5
第６図　トレンチ位置図……6
第７図　トレンチ平・断面図……7
狐塚古墳発掘調査
第８図　調査地位置図……8
第９図　トレンチ位置図……9
第10図　トレンチ断面図……9

Ⅰ　歴史的環境

池田市は大阪府の西北部に位置し、東西3.82km、南北10.28kmの南北に細長い市域を有している。その位置は、西摂平野の北部、丹波山地に源を発する猪名川が北摂山地を分断して平野部に出たところにあり、古くから谷口集落として、大阪と丹波、能勢地方の物資集散、文化交流に中心的な役割を果してきた。

池田市の地形をみると、市域のほぼ中央に五月山塊が占め、それより北には、北摂山地および余野川によって形成された沖積平野が広がっている。また、五月山塊より南には、標高50～100mの緩やかな五月山丘陵が広がり、さらに南側には、猪名川によって形成された広大な沖積平野が広がっている。このような自然環境の中、人々は旧石器時代から生活を営んでいたことが近年の発掘調査で明らかにされている。

旧石器時代

現在のところ、旧石器時代に関するものは希薄である。遺物が出土した遺跡としては、伊居太神社参道遺跡と宮の前遺跡（蛍池北遺跡）が挙げられるが、遺構に関しては未確認である。

伊居太神社参道遺跡は標高約50mの五月山塊西端部に位置し、明治年間から石器が採集され、その中に少量であるがナイフ形石器、尖頭器等の旧石器時代に比定されるものが認められている。宮の前遺跡では、昭和期から旧石器が収集され、また、発掘調査では、昭和61年度の大阪府教育委員会や平成元年度の豊中市教育委員会による蛍池北遺跡で国府型ナイフ形石器が出土している。

縄文時代

上述した伊居太神社参道遺跡において、縄文時代のサヌカイト製の石鏃が、五月山丘陵に位置する京中遺跡ではサヌカイト製の石鏃・石匕が採取され、また、近隣の畑ではサヌカイト製の尖頭器が採集されている。一方、南部の台地に位置する神田北遺跡では石鏃・石匕が、宮の前遺跡では石棒が採取されている。近年の発掘調査においては、池田城跡下層から晩期の生駒西麓産突帯文土器が出土し、また、豊島南遺跡で後期から晩期の土器が出土している。しかし、出土した土器は少量で、また、遺構は検出されておらず、縄文時代の集落等の規模・性格等は明らかではない。

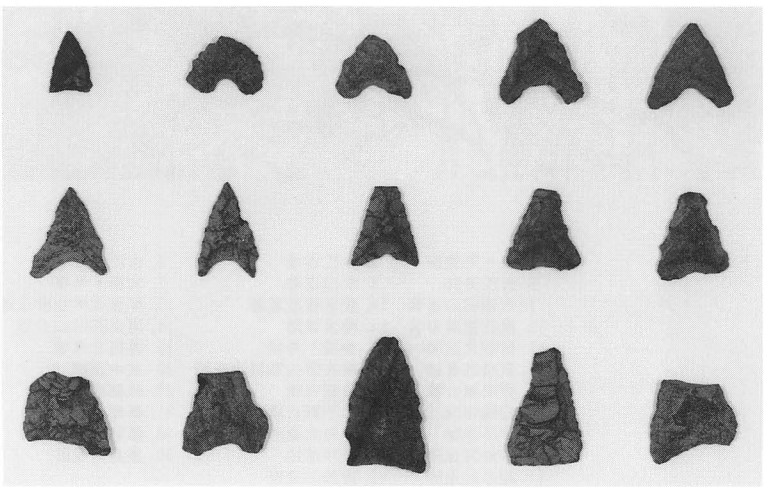
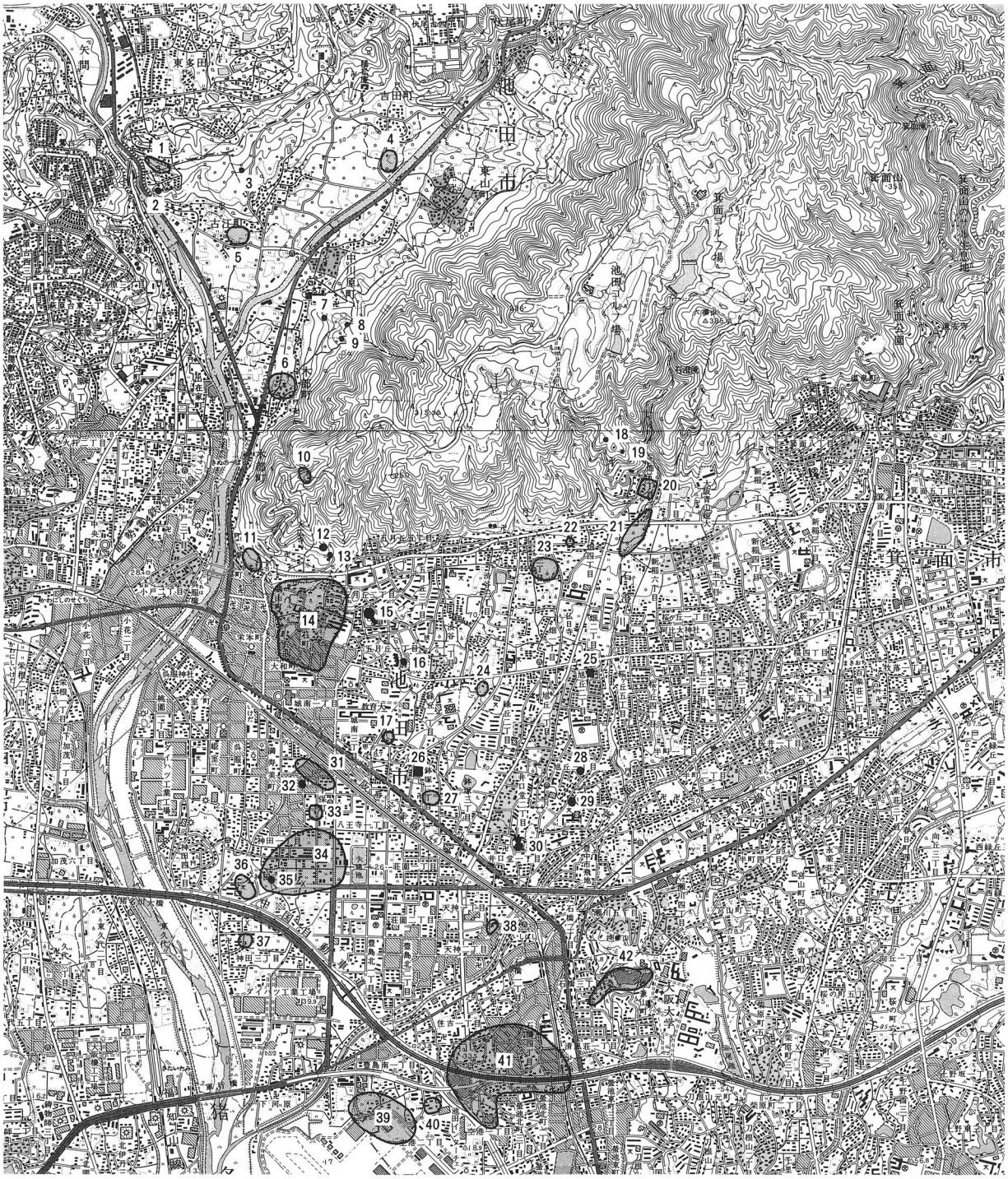


図1　伊居太神社参道遺跡の石器

弥生時代

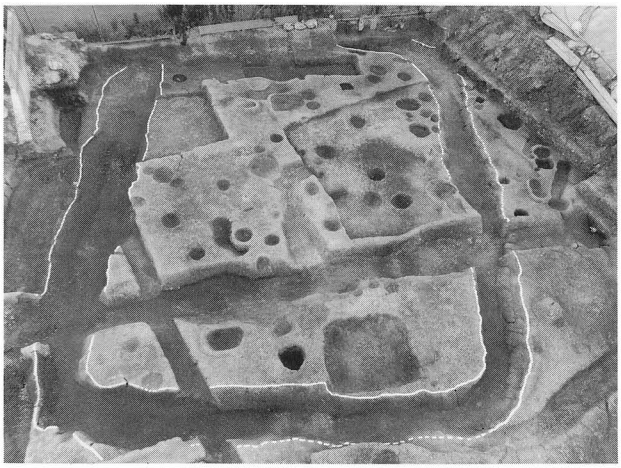
弥生時代前期の遺跡としては、五月山北麓に位置する木部遺跡が挙げられる。木部遺跡は工事中に発見された遺跡で本格的な調査がされていないため、詳細は不明である。しかし、弥生時代前期から



1. 鼓ヶ滝遺跡　2. 古江古墳　3. 古江北古墳　4. 吉田遺跡
5. 古江遺跡　6. 木部遺跡　7. 木部１号墳　8. 木部２号墳
9. 木部桃山古墳　10. 愛宕神社遺跡　11. 伊居太神社参道遺跡　12. 娯三堂古墳
13. 娯三堂南古墳　14. 池田城跡　15. 池田茶臼山古墳　16. 五月ヶ丘古墳
17. 鉢塚北遺跡　18. 善海１号墳　19. 善海２号墳　20. 石積廃寺
21. 新稲西遺跡　22. 畑有舌尖頭器出土地　23. 京中遺跡　24. 夏湖池遺跡
25. 野田塚古墳　26. 鉢塚古墳　27. 鉢塚南遺跡　28. 狐塚古墳
29. 石橋古墳　30. 二子塚古墳　31. 禅城寺遺跡　32. 宇保猪名津彦神社古墳
33. 宇保遺跡　34. 神田北遺跡　35. 脇塚古墳　36. 門田遺跡
37. 神田南遺跡　38. 天神遺跡　39. 豊島南遺跡　40. 住吉宮の前遺跡
41. 宮の前遺跡　42. 待兼山遺跡

第２図　遺跡分布図

後期の土器が出土しており、池田市内では唯一弥生時代全般を通じて営まれた遺跡である。弥生時代中期においては、台地上に位置する場所で遺跡が現れるようになる。宮の前遺跡は昭和43年・44年に中国縦貫自動車道建設にともない発掘調査が大規模になされ、方形周溝墓、竪穴式住居跡、土壙墓等の遺構が多数検出されている。また、宮の前遺跡から西へ約1kmに位置する豊島南遺跡では方形周溝墓が検出され、宮の前遺跡との関連が注目される。後期に入ると、宮の前遺跡、豊島南遺跡は消滅し、かわって、五月山の丘陵上に位置する池田城跡下層、鼓ヶ滝遺跡、京中遺跡、愛宕神社遺跡等の遺跡が現れる。池田城跡下層では平成3年の調査において、ベッド状遺構を伴う竪穴式住居跡が検出されている。また、台地では神田北遺跡においては、竪穴式住居跡、土坑が検出されているが、全体的に後期に入ると集落は五月山の丘陵に散らばり、小規模化する。



第3図　豊島南遺跡方形周講墓

古墳時代

池田市内に残る古墳時代前期に築造された古墳は、池田茶臼山古墳と娯三堂古墳が挙げられる。この2つの古墳の主体部は共に竪穴式石室を有する。池田茶臼山古墳は五月山塊より派生する丘陵の鞍部に築造された全長62mの前方後円墳で、葺石、埴輪列が検出されている。一方、娯三堂古墳は池田茶臼山古墳より北西約500m離れた五月山中腹に位置する径27mの円墳で、石室内からは画文帯神獣鏡が出土した。また、平成元年度の調査の結果、同一の墓壙内に竪穴式石室と粘土槨が存在することが確認されている。古墳時代中期に至ると高塚式の古墳はなくなり、かわって、小規模な低墳丘古墳が宮の前遺跡、豊島南遺跡で見られるようになる。古墳時代後期では善海1・2号墳、木部1・2号墳、木部桃山古墳、須恵質の陶棺を持つ五月ヶ丘古墳のような単独、あるいは2～3基を一単位とする小規模な古墳が現れるが、群集墳は形成されない。しかし、一方で、巨大な横穴式石室を有する鉢塚古墳や前方後円墳の二子塚古墳が築造されており、この地域の古墳の中でも、異質の存在である。

古墳時代の集落遺跡としては、古江遺跡、木部遺跡等で須恵器や土師器が出土しているが、これらの遺跡では、遺構の詳細は判然としない。豊島南遺跡では布留式の土器を伴う焼失住居が検出され、現在のところ、市内において古墳時代前期の集落遺構が確認された唯一の遺跡である。中期に入ると少しではあるが、検出遺構も増していく。宮の前遺跡では竪穴式住居跡が検出されており、また、豊島南遺跡では竪穴式住居跡、溝跡が検出されている。

歴史時代

集落遺跡としては、宮の前遺跡で奈良時代の掘立柱建物跡・溝跡が検出されており、豊島南遺跡、神田北遺跡においても奈良時代の掘立柱建物跡等が検出されている。寺院跡としては白鳳・天平時代の瓦が採取された石積廃寺があるが、未調査のため詳細は明らかではない。中世

では神田北遺跡で掘立柱建物跡が検出されており、後白河院領として開発が推進された呉庭荘と関係するものとも考えられる。

室町時代から戦国時代にかけて、国人の池田氏が豊島郡一帯の政治、経済を掌握するようになる。その池田氏の出自の詳細は明らかではないが、応仁の乱ごろから摂津守護細川氏の被官として勢力を拡大させていくが、永禄11年（1568）織田信長の摂津入国により、池田氏は降伏を余儀なくされ、ついには、元家臣荒木村重によって、その地位を奪われることになる。池田氏の居館であった池田城は、五月山塊から南方へ張り出した台地上の南麓に位置し、現在でも主郭には土塁や空堀が良好に残る。昭和43・44年に主郭部の一部が調査された際、礎石を伴う建物跡や枯山水様の庭園跡が検出され、また、平成元年度から平成4年度の調査では虎口、建物跡、小規模な石垣、内堀、塀列建物跡等を確認している。

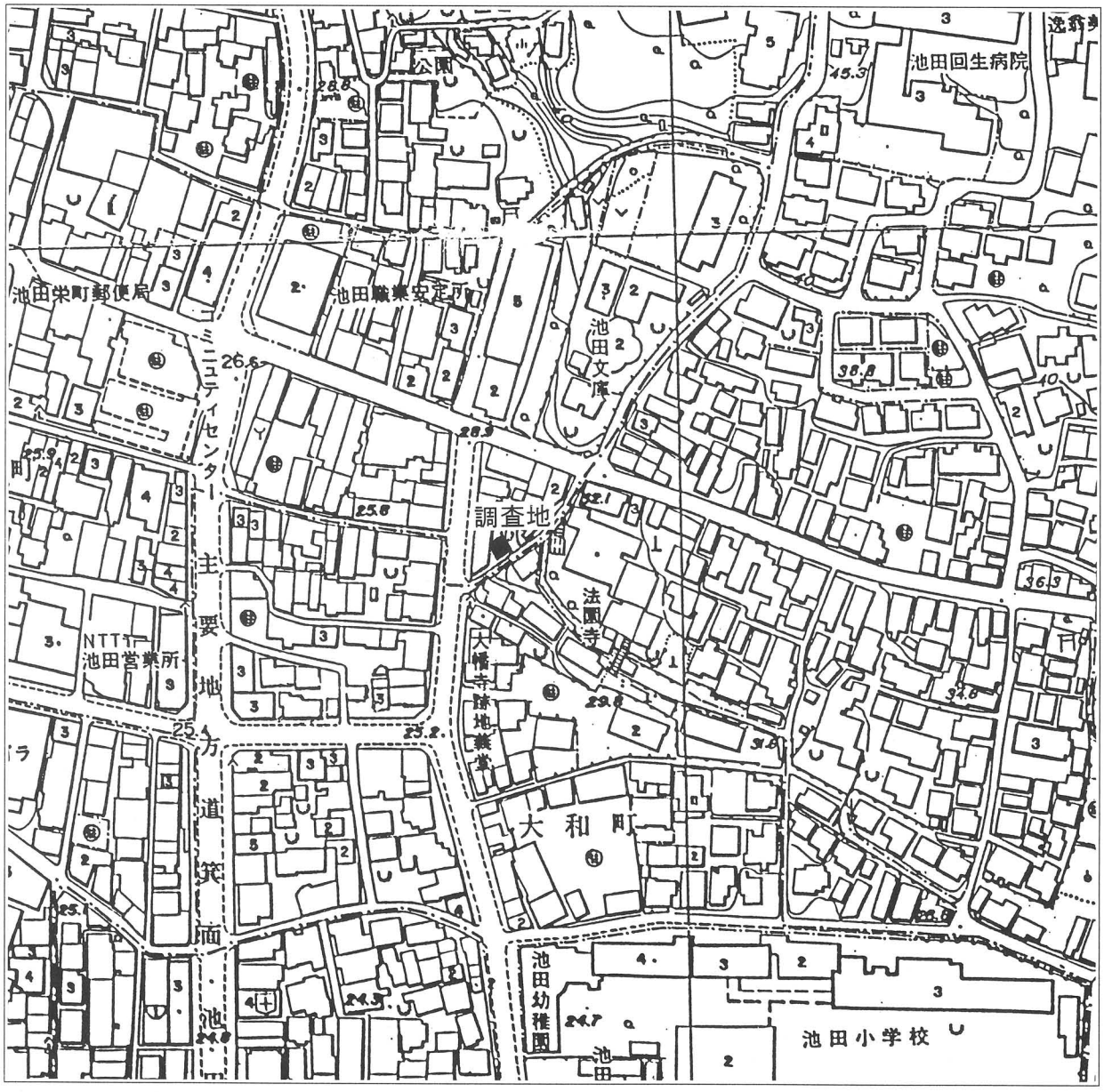
第4図　池田城跡主郭遺構状況

参考文献
坂口重雄「地形と地質」『池田市史』各説編　1960年
富田好久「考古学上に現れた池田」『新版池田市史』概説篇　1971年
橘高和明『原始・古代の池田』池田市立池田中学校地歴部　1985年

Ⅱ　池田城跡発掘調査

1．はじめに

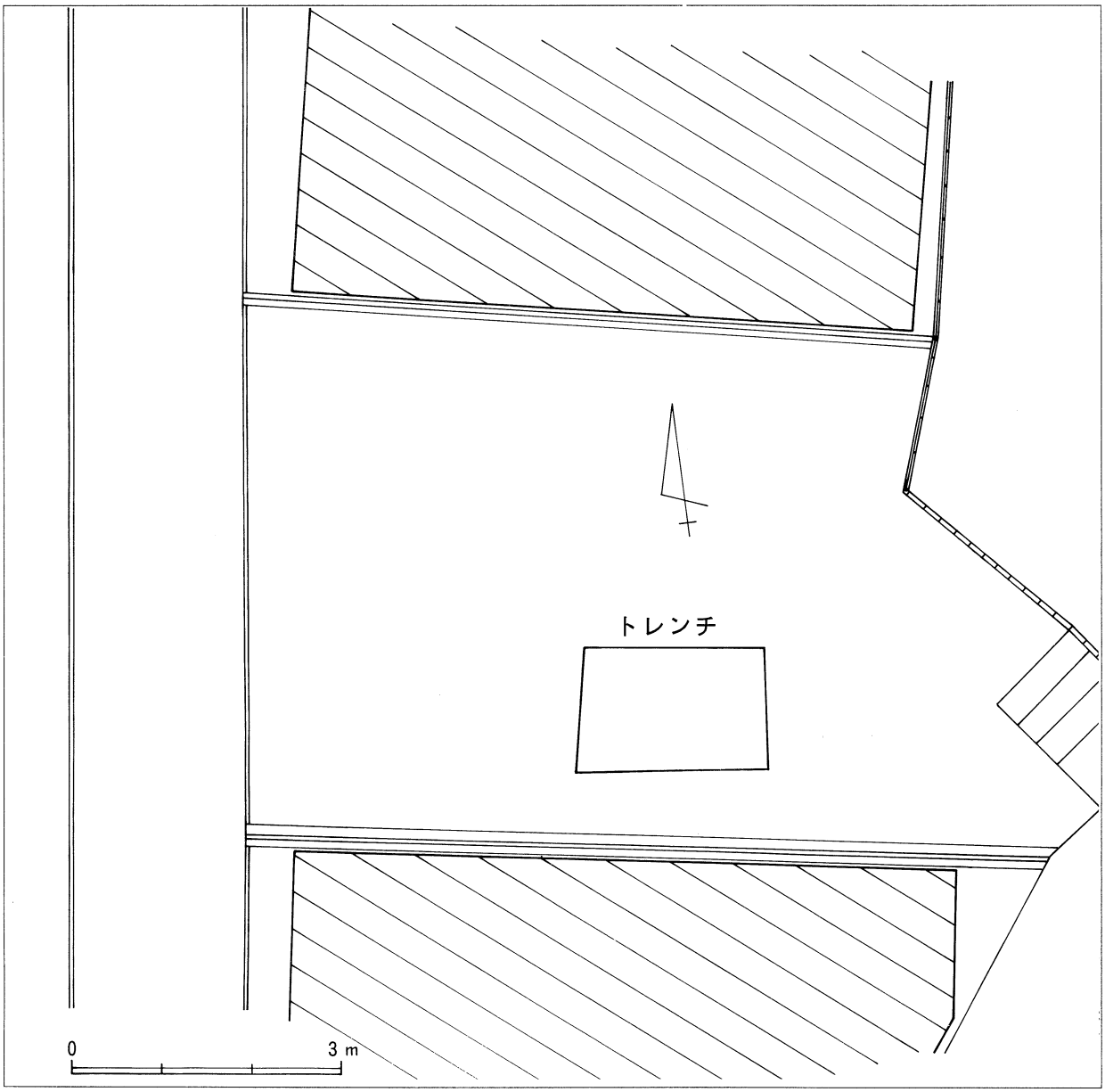
池田市の城山町・建石町一帯に広がる池田城は、戦国期を中心とする国人池田氏の居城である。池田城跡は五月山塊から張り出した標高50ｍを測る台地の西縁辺に立地し、その場所からは、眼下に旧池田村を望むことができる。また、丹波山地から大阪湾に流れ込む猪名川、大阪と能勢地方を結ぶ街道を一望することもでき、そのことから、池田城は当時の交通の要衝に選地されていたことが判る。池田城を居城とした国人池田氏の出自についての詳細は明らかではないが、14世紀中頃の文献からその名が散見されるようになる。しかし、当時の池田氏の動向は不明な点が多い。15世紀後半頃以降、摂津守護細川氏の被官として、幾度かの落城を経験し



第５図　調査地位置図

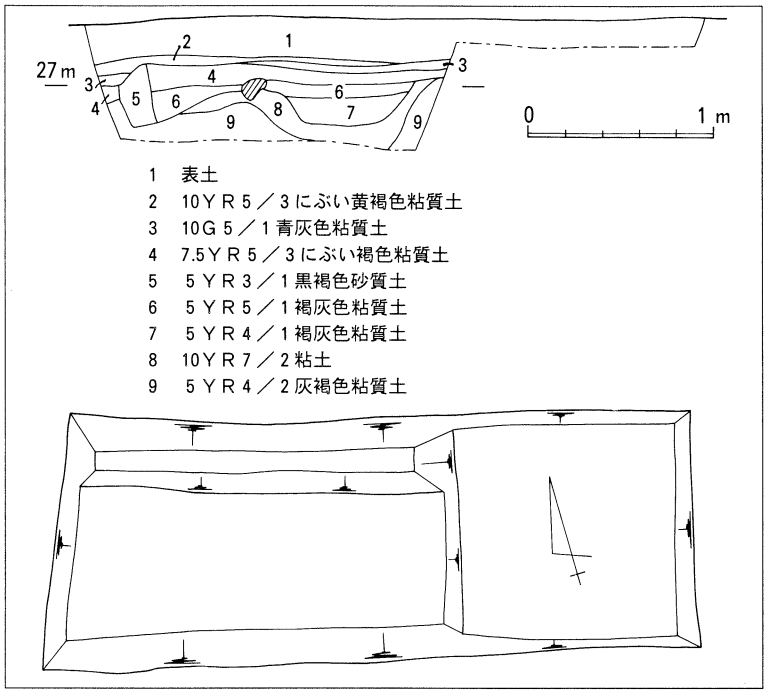
ながらも、荘園経営や高利貸経営により勢力を伸ばし、摂津の国人の中でも有力な地位を得るようになった。しかし、永禄11年（1568)、織田信長による摂津入国に際し、降伏を余儀なくされ、信長の支配下となる。その後、元家臣であった荒木村重によって城を奪われ、そして、池田城は村重の有岡城入城に伴い、政治・経済支配の拠点としての役割を終えることとなった。

池田城跡の主郭部は、現在でも土塁と空堀が良好に残り、当時の面影を少しは窺わせるが、城全体の構造について不明な点が多く残っていた。昭和43・44年に主郭部の一部で発掘調査がなされ、建物跡に伴う礎石、石組の溝、中世城郭では珍しい枯山水様の庭園跡、落城に伴う焼土層等が検出された。また、平成元年～４年に実施された主郭部の発掘調査では、排水のための暗渠を埋設する虎口、礎石や一部瓦を伴う建物跡、石組の溝、小規模な石垣、主郭内に設けられた内堀、倉庫と考えられる塀列建物跡等が検出された。一方、大阪府教育委員会や池田市



第６図　トレンチ位置図

教育委員会による主郭周辺の発掘調査では、主郭部の南方約100ｍの位置で大手口が存在することや空堀が幾重にも巡らされていることが判明しており、少しずつであるが城の全容が解明しつつある。また、池田城以前の時代についても明らかになりつつあり、昭和60年以降の大阪府教育委員会による調査では縄文時代晩期の土器、弥生時代後期の竪穴式住居跡、古墳時代中期の土坑、奈良時代の木棺墓が検出されており、また、平成３年度の池田市教育委員会による発掘調査では、庄内期のベッド状遺構を伴う竪穴式住居跡が検出されている。



第７図　トレンチ平・断面図

２．池田城跡第35次発掘調査

調査の概要

発掘調査は池田市栄本町3063－１において、個人住宅建築工事に先立ち実施した。調査地は池田城跡の西南端に位置しており、池田城が立地する五月山から張り出した台地の下部にあたる。調査面積は４㎡である。

基本層序は第１層は表土、第２層はにぶい黄褐色の粘質土、第３層は青灰色の粘質土、第２層及び、第３層は、遺物から近世おわりごろの整地層と考えられる。第４層はにぶい褐色粘質土、第５層は灰褐色粘質土で、近世の整地層である。第５層上から土層が切れ込んでいるが、土層の確認を中心とするトレンチ調査なので、遺構になるかは不明である。第５層は地山でなく、その下にも層があると思われるが、基礎の関係上、掘削を控えた。

出土遺物も池田城跡に関するものはなく、近世の瓦などが中心であった。調査地は池田城が立地する台地の下部の平地にあたり、池田城以後、近世に入ると開発が進んだため、今回の調査においては近世に関するものが多かった。

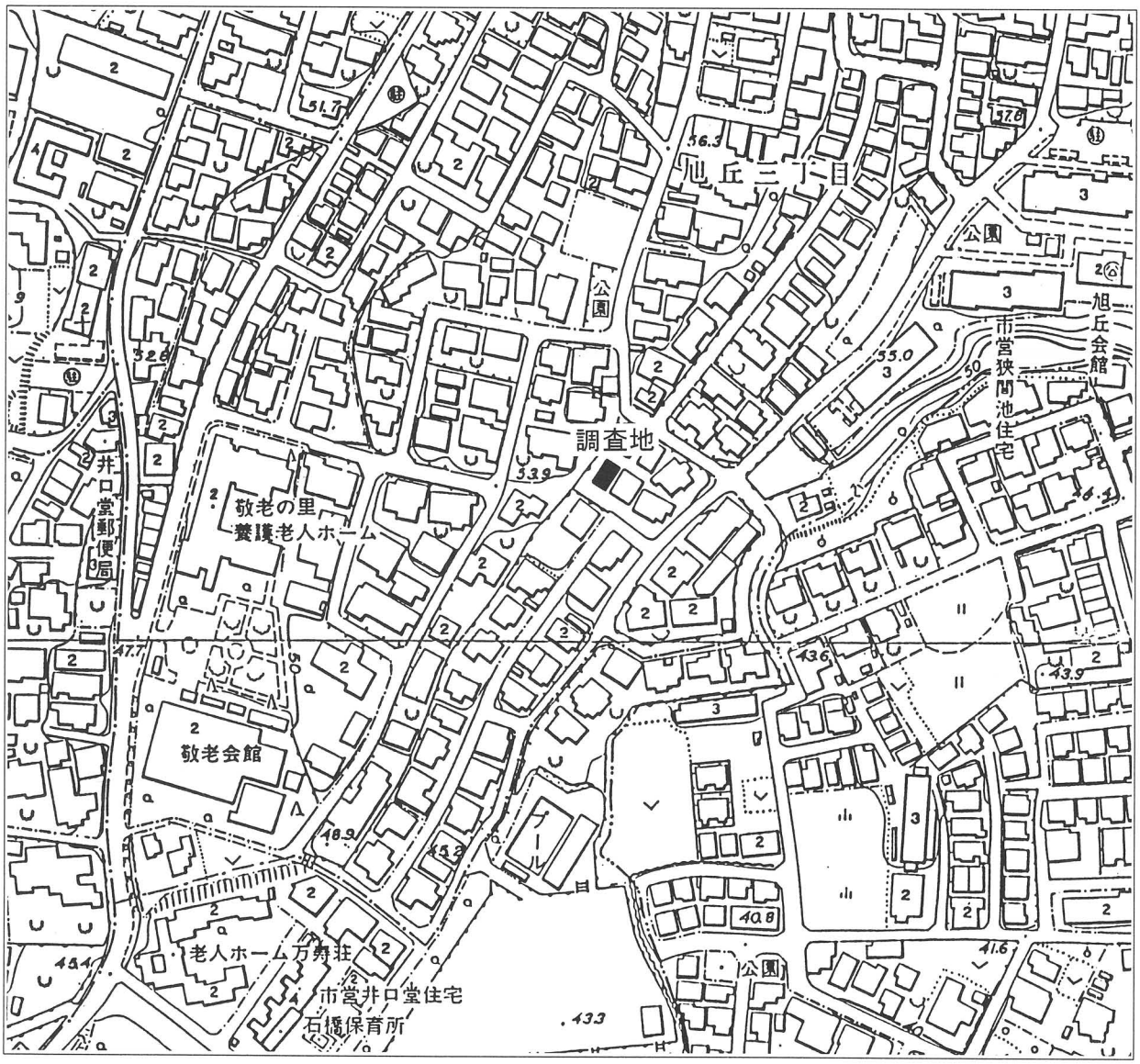
Ⅲ　狐塚古墳発掘調査

1．はじめに

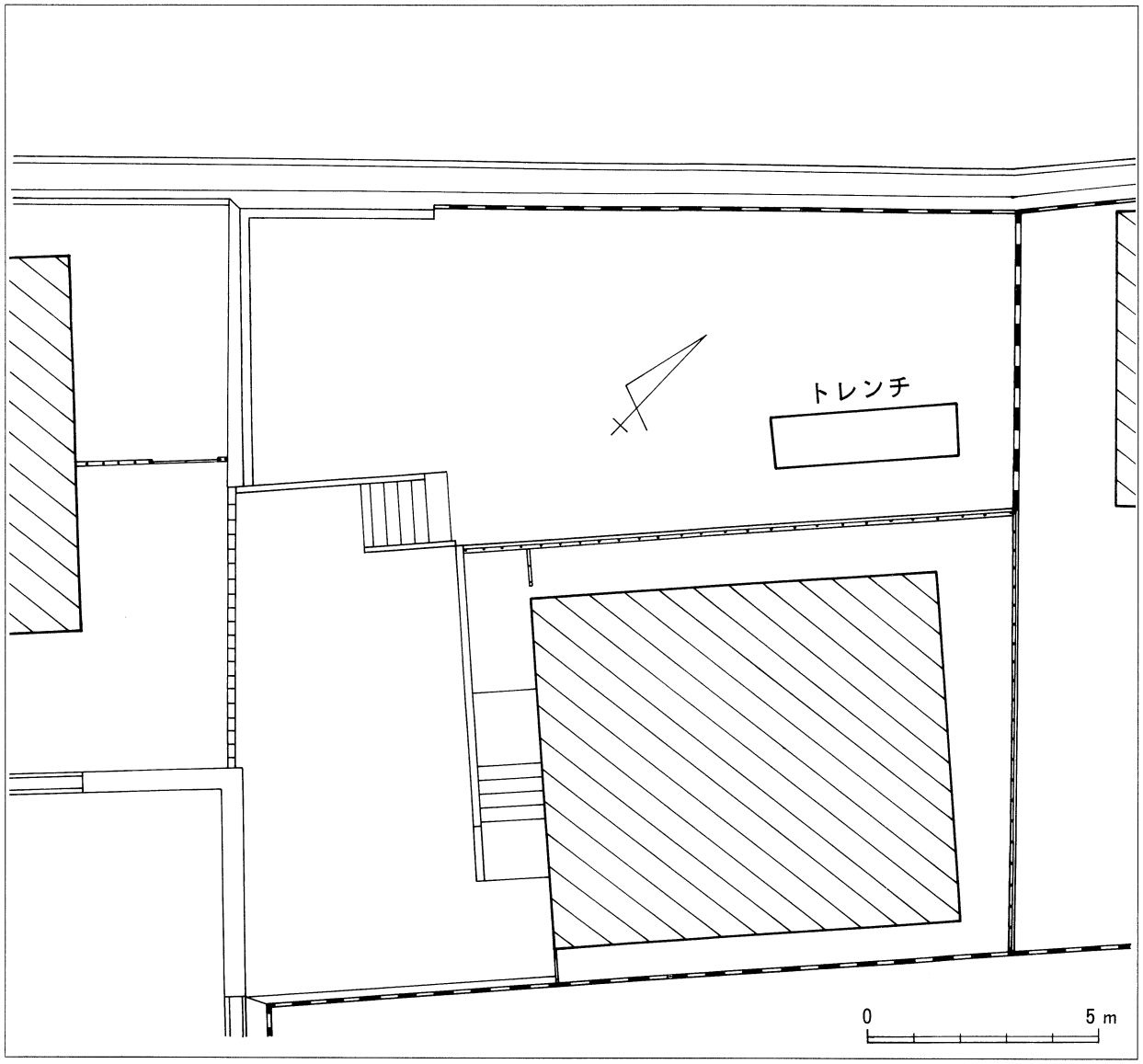
狐塚古墳は、池田市旭丘３丁目に位置し、大阪府立池田高等学校の南約200ｍの所にあった古墳である。現在は宅地となっているため、古墳の面影すらわからない状態である。昭和４年、学生らによって発掘がなされ、学術調査ではなかったので正確な記録ではないが、古墳の周囲が約25間、高さ１丈、広さ40余坪の円墳で、石室は、羨道と玄室がある横穴式石室である。石室は南に開口しており、内部には木棺があったらしく、朱だけが残っていた。出土遺物としては、杯・高杯・脚付壺・金環等が出土したと伝えられている。

2．狐塚古墳第１次発掘調査

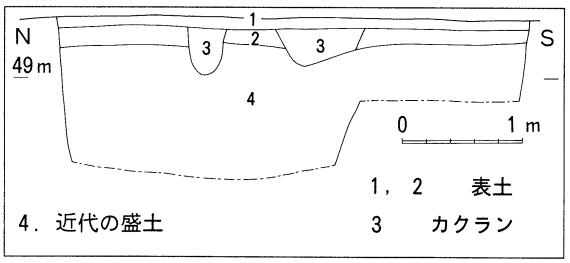
調査の概要



第８図　調査地位置図



第９図　トレンチ位置図



第10図　トレンチ断面図

発掘調査は池田市旭丘３丁目97－８において個人住宅の新築工事に先立って実施した。調査地は狐塚古墳の範囲の南側に位置する。調査は土層を確認することを主眼におき実施した。調査面積は８㎡である。

基本層序は第１層は表土、第２層は近代の盛土である。表土下約150cmを掘削したが古墳に関する土層等は確認できなかった。また、出土遺物もなかった。

調査によって、古墳の正確な位置、大きさ等はわからなかったが、今後の調査が期待される。

報 告 書 抄 録

ふりがな	いけだしまいぞうぶんかざいはっくつちょうさがいほう
書名	池田市埋蔵文化財発掘調査概報
副書名	池田市文化財調査報告第23集
巻次	
シリーズ名	池田市文化財調査報告
シリーズ番号	23
編著者名	中西正和
編集機関	池田市教育委員会
所在地	〒563　大阪府池田市城南1丁目1番1号　☎0727-52-1111
発行年月日	1997年3月31日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
いけだじょうせき 池田城跡	いけだしたていしちょうしろ 池田市建石町・城 やまちょうさかえほんまち 山町・栄本町	272043	—	34度 47分 50秒	135度 26分 50秒	961007 ～ 961009	4㎡	個人住宅新築のための事前調査
きつねづかこふん 狐塚古墳	いけだしあさひがおか 池田市旭丘3丁目	〃	—	34度 48分 50秒	135度 27分 50秒	961212 ～ 961219	8㎡	個人住宅新築のための事前調査

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
池田城跡	城館跡 集落跡	縄文～中世	整地層	瓦等	
狐塚古墳	古墳	古墳			

(1)　トレンチ全景（西から）

(2)　トレンチ北面土層

(1)　トレンチ全景（西から）

(2)　トレンチ全景（北東から）

池田市文化財調査報告第23集
池田市埋蔵文化財発掘調査概報
１９９６年度
１９９７年３月
発行　池田市教育委員会
池田市城南１丁目１番１号
編集　社会教育課　文化財係
印刷　西村印刷株式会社